

愛する者たちよ。あなたがたを試みるために降りかかってくる火のような試練を、何か思いがけないことが起ったかのように驚きあやしむことなく、むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど、喜ぶがよい。それは、キリストの栄光が現れる際に、よろこびにあふれるためである。

くる 苦しみよなれは 人をととのえて ざ ^{まえ} み座の前にて しゅろの枝をもつ ^{しゅく むれ あお み} 祝されし群を 仰ぎ見さしむ。 9

主のために成して 苦しみ受くとも ^{to な} 空しくあらず。 恵みは人をば ^{C こ ろ} はだか 試みによりて 気高くなせば。

6

10

いた きわ 痛みの極にも 主への愛に燃え われつき進む。 主よわれの死をも 愛する主の死に 似させたまえや。

7

 11

Lの とお こもべれい 忍び通したる 主の僕の霊 あめ のぼ 天に昇らん そのとき御神は かれ たま いかなる平和を 彼に賜わらん。

8

み神を愛して いかなる痛みも

^{た ぬ}
耐え抜きしなば この世の人々

^{でし}
なれをば主イェスの 弟子と知るらん。

12

主イェスよわれらを 終りの時まで あめ めざ ちゅうじつつ 天を目指させ 忠実を尽くし いえ み父の家にぞ 着かせたまえや。